

瑞穂地域審議会

提言書

平成21年8月19日

はじめに

雲仙市が誕生して、4年が過ぎようとしておりますが、雲仙市総合計画に掲げられております市の将来像と施策に基づき、雲仙市のまちづくりが着実に進められておりますことに、心から敬意を表します。

さて、私たち瑞穂地域審議会委員15人は、平成19年7月に市長から委嘱を受け、第2期瑞穂地域審議会として活動を開始しました。市の総合計画や地域振興計画、委員としての所管事務等について研修し、その責任を深く認識する中で、「地域審議会の設置に関する事項」第3条第2項の「審議会は、必要と認める事項について審議し、市長に意見を述べることができる。」を根拠として、市内全地域が等しく発展することを目指して、地域の課題を探り、提言書としてまとめ、市長に提言することを決定しました。

以来、定例会議を7回と臨時会議を3回開催し、様々な地域課題の一つひとつを市民の目線でしっかりと見つめ、現状と課題やその解決策について審議を重ね、このほど提言書としてまとめることができました。

本来、審議会としての提言は、中長期的な視点に立ってまとめるべきであると考えますが、現状を少しでも早く改善する必要がある事業、また、新規に実施していただきたい事業等があり、ここに本審議会として提言いたします。

平成21年8月19日

雲仙市長 奥村 慎太郎 様

瑞穂地域審議会会長 東 康敬

目 次

ページ

- 1．産業の育成、振興について
 - (1) 農水産業の振興について
 - () 1．5次産業及び第六次産業の振興・・・・・・・・・・ 1
 - () 高齢者でも出来る農業の推進・・・・・・・・・・ 1
 - () 食の安全について・・・・・・・・・・ 1
 - (2) 体験型観光、滞在型観光の推進について・・・・・・・・ 2

- 2．参加・協力が可能な地域資源を活かした地域づくりについて
 - (1) イベント等開催による地域活性化、人材育成について・・・・ 2
 - (2) 人として生涯現役を求めて・・・・・・・・・・ 3
 - (3) ノーベル化学賞受賞者下村脩氏の生家等を活用した地域
活性化について・・・・・・・・・・ 3

- 3．合併後の市政について、全市にかかわる提言
 - (1) 市道及び農道の改良推進について・・・・・・・・・・ 3

瑞穂地域審議会提言書

1. 産業の育成、振興について

(1) 農水産業の振興について

() 1. 5次産業及び第六次産業の振興

現状と課題

本地域の基幹産業は農業であるが、農作物の自由化や資材費等高騰によるコスト増により農家収益は低下し、特に農業のビジネス化に繋がっていない小規模農家や経営が安定していない農家にとっては死活問題となっている。所得向上に繋がる農業振興策はないか。

解決策

小規模農家や経営が安定していない農家の所得向上に繋がる農業振興策として、市として次の事業を行い、支援する。

第一次産業だけでなく、付加価値を付け、加工し直売する1・5次産業を推進する。

付加価値を付ける加工等については、地域性のある昔ながらの手造り加工品を主としながら、ニーズに対応したものを広げていく。

農畜水産物の生産（第一次産業）だけでなく、食品加工（第二次産業）や流通、販売（第三次産業）まで農業者が関わり、加工賃や流通マージンなどの今まで第二次、第三次産業の事業者が得ていた付加価値を、農業者自身が得ることによって農業を活性化させる第六次産業を推進する。

() 高齢者でも出来る農業の推進

現状と課題

農業従事者の急激な高齢化が問題となっているが、高齢農業従事者のための農業振興策はないのか。

解決策

高齢農業従事者の農業振興策として、簡単に栽培できて、また、運搬できる軽量野菜栽培を奨励し、推進するために、市として次の事業を行い、支援する。

朝市、直売所の開設（農家にとって流通が便利なものを調査する。）

ネット販売の開拓、推進（ソフト的な事業として調査研究する。）

() 食の安全について

現状と課題

元来、日本人は自国の気候風土で育った食物を摂って生活してきた。しかし、食糧自給率は低下し、輸入食物が増え、それが崩れかけている現代において、食の安全性が見直されつつある。これを契機に、食の安全性、農水産業の重要性等が分かるような料理の提供が課題である。

解決策

「トマトが赤くなると、医者が青くなるプロジェクト」として、農家が市場等に出荷できない規格外野菜を使った料理の紹介や、新鮮な野菜等PRすることを目的に、市として次の事業を行い、支援する。

四季折々の旬の野菜を使った料理教室の開催

昔ながらの伝統食と現代風にアレンジした本地域ならではの料理の開発

市外の料理関係者、ホテル・旅館関係者、マスコミ関係者等呼び込んだ試

食会の開催、各季節の旬な野菜の直売とPR

野菜料理評論家による講演会の開催

(2) 体験型観光、滞在型観光の推進について

現状と課題

市においては、交流人口の拡大を目的に、NPO法人がまだすネットを通じて、農林水産観光業等の体験活動や火山学習を結びつけた体験型観光の推進を図っているが、本地域でも一部の農家において、がまだすネットの体験プログラムを受け入れ、体験型観光の推進に協力してる。

今後、体験型観光や滞在型観光を推進するためには、体験プログラム受け入れ世帯やインストラクター、民泊受け入れ世帯の確保、遊休施設利活用による滞在型体験メニューの開発等が課題である。

解決策

自然環境に恵まれ、観光資源が豊富な本地域において、農林水産観光業、物産、温泉、グルメ、火山学習等の体験活動を結びつけた体験型観光を推進することは、地域や産業の活性化にも繋がることから、体験プログラムや民泊等の受け入れ世帯やインストラクターの確保、本地域の遊休施設等を活用した滞在型体験メニューの開発などを目的に、市として次の事業を行い、支援する。

花摘みやみかん・ジャガイモ等の収穫、茶摘み、そば打ち、パン作り等農林水産観光業体験活動の受け入れ世帯やインストラクターを確保し、本地域の民泊受け入れ世帯に2～3日滞在して行う体験メニューを開発する。

農家民泊のメリット、デメリット等を周知し、民泊受け入れ可能な農家を確保する。

クラフトハウス等の遊休施設を有効利用し、通常は物づくりの拠点として周年利用すると共に、夏季限定で「みずほの森」公園キャンプ場と組み合わせ、アウトドア体験と物づくり体験の両方が楽しめる滞在型観光体験メニューの開発を行う。

農村景観の発掘、活用

2. 参加・協力が可能な地域資源を活かした地域づくりについて

(1) イベント等開催による地域活性化、人材育成について

現状と課題

これまで長年継続して開催されてきた本地域の「夏祭り」が開催されなくなって数年になる。しかし、「地元住民やお盆に里帰りする兄弟姉妹、親戚たちの多くが、夏祭りを楽しみにして毎年帰省していた。ぜひ、夏祭りを復活開催してほしい。」旨の、「夏祭り」の復活開催を望む声が多くあることから、実行委員会の人材不足等の問題を早急に解決すると共に「夏祭り」の内容を再検討し、誰もが参加しやすく、また、地域の活性化に繋がるイベントとして開催すべきだ。

解決策

本地域の瑞穂町青年農業者連絡協議会（以下、「農青」という。）が、「瑞穂フレッシュ朝市」のフォローアップを実行中であるが、その農青が、「夏祭りの復活！『みずほ夏の夜市2009』」と銘打って「夜市」と「夏祭り」を一緒に開催するプランを計画している。

今後は、農青だけでなく、地域住民から実行委員になってもらう有志を募り、組織を立ち上げ、ボランティアを確保し、「夏祭りの復活！『みずほ夏の夜市2009』」の開催を目指して、市として次の事業を行い、支援する。

地元の農水産商工業の特産品の即売

地元文化団体やダンスグループ等の活動を発表するステージイベントの開催
夏祭りを独身男女の出会いの場、交際のきっかけづくりの場とする。

（多くの独身男女を対象に、夏祭り実行委員会のボランティアとして応援を呼びかけ、遊びだけの参加ではなく、イベントボランティアとして、他人に必要とされる有意義な役割を一緒に担ってもらいイベントを成功させ、苦楽を共にすることで、交際のきっかけづくりとする。）

(2) 人として生涯現役を求めて

現状と課題

高齢者の方々は地域の宝であり、地域を支え、リードする牽引車のような人たちでもある。地域住民は、これまで永く生きてこられた高齢者の方々に讃え、敬意、貴重な経験から知恵と技術を学び、受け継ぎ、後世へ伝えることに意義を見出す必要がある。また、産業分野においても、高齢者の方々の経験を活かすことで、産業の新たな発展や地域の活性化に繋がると考えるが、具体的に、どのような方法で受け継ぎ、伝えていくかが課題である。

解決策

本地域の高齢者の方々の経験を活かすために、市として次の事業を行い、支援する。

本地域の高齢者の方々の多種多様で専門的な知識や技術を後世に伝えるために、市主催の各種講座・教室等の講師としてご協力いただく。
同じ趣味や特技を活かした活動を目指すグループの育成と、活動への支援
上記の活動内容を地域外へ情報発信し、交流人口の拡大に繋げる。

(3) ノーベル化学賞受賞者下村脩氏の生家等を活用した地域活性化について

現状と課題

ノーベル化学賞受賞の下村脩氏の生家を地域活性化に役立てられないか。

解決策

ノーベル化学賞受賞の下村脩氏の生家は、本地域にとっても貴重な宝となることが考えられ、生家の居住者や下村家の方々に今後の生家の取り扱いについて確認し、その意向を尊重しながら、下村家・地域・行政の協働により、今後の維持管理も含めてその活用策について、継続して検討していく。

3. 合併後の市政について、全市にかかわる提言

(1) 市道及び農道の改良推進について

現状と課題

本地域には、圃場整備施行により改良された農道でありながら、道幅等が狭く、見通しも悪く、また、沿道の石垣の痛みもひどく、通行上、大変危険な農道がある。また、市道においても、未整備箇所や改修の必要な箇所、通行上危険な箇所がある。

解決策

本地域の市道及び農道の改良推進について、各道路の性質上、地域の取り組みにも対応に限界があると考え、市として改良推進に早急に取り組み、支援する。